

「三陸沖から房総沖にかけての地震活動の長期評価」の平成23年3月8日時点での修正素案について

平成23年2月23日の長期評価部会での評価文案と、3月3日の電力事業者との情報交換会を踏まえて修正した評価文案(3月8日時点)の比較を以下の表に示す。電力事業者の反応を踏まえた修正部分を赤字下線で表記した。なお、一部に2/23の長期評価部会の意見を踏まえて修正した部分もあり、当該修正部分を青字ゴシックで表記した。

表 新旧対応表

2/23 長期評価部会での評価文案	3/8 時点の事務局修正素案
<p><主文> 2-2次の地震 宮城県沖から福島県沖にかけて 宮城県中南部から福島県中部にかけての沿岸で、巨大津波による津波堆積物が過去2500年間で4回堆積しており、そのうちのひとつが869年の地震(貞観地震)によるものとして確認された。最新は西暦1500年頃の津波堆積物で、貞観地震のものと同様に広い範囲で分布していることが確認された。貞観地震以外の震源域は不明であるが、巨大津波を伴う地震が発生する可能性があることに留意する必要がある。</p>	<p><主文> 2-2次の地震 宮城県沖から福島県沖にかけて 宮城県中南部から福島県中部にかけての沿岸で、巨大津波による津波堆積物が過去2500年間で4回堆積しており、そのうちのひとつが869年の地震(貞観地震)によるものとして確認された。最新は西暦1500年頃の津波堆積物で、貞観地震のものと同様に広い範囲で分布していることが確認された。これらの地域では、巨大津波が複数回襲来したことに留意する必要がある。 <u>なお、貞観地震の震源域は推定できたものの、貞観地震以外の震源域は不明である。</u></p>
<p><主文> 3 今後に向けて ・三陸沖北部、宮城県沖、三陸沖南部海溝寄りの領域及び茨城県沖の地震以外は、過去の地震資料が少ないなどの理由でポアソン過程として扱ったが、今後新しい知見が得られればBPT分布を適用した更新過程の取り扱いの検討が望まれる。 ・三陸沖～房総沖にかけての海域ではプレート内逆断層型の大地震についてはこれまで知られていない。しかし、同様に過去このタイプの地震が知られていなかった北海道東方沖で</p>	<p><主文> 3 今後に向けて ・三陸沖北部、宮城県沖、三陸沖南部海溝寄りの領域及び茨城県沖の地震以外は、過去の地震資料が少ないなどの理由でポアソン過程として扱ったが、今後新しい知見が得られればBPT分布を適用した更新過程の取り扱いの検討が望まれる。 ・三陸沖～房総沖にかけての海域ではプレート内逆断層型の大地震についてはこれまで知られていない。しかし、同様に過去このタイプの地震が知られていなかった北海道東方沖で</p>

<p>1994年にM8.2の地震が発生したこともあり、このような地震についても留意する必要がある。</p> <p>・宮城県沖について1978年の地震のアスペリティ群のうち2005年の地震で破壊されなかったアスペリティがいつ・どのように破壊するかは不明であるので、継続してプレート間すべりの時空間変化に注目していく必要がある。</p>	<p>1994年にM8.2の地震が発生したこともあり、このような地震についても留意する必要がある。</p> <p>・宮城県沖について1978年の地震のアスペリティ群のうち2005年の地震で破壊されなかったアスペリティがいつ・どのように破壊するかは不明であるので、継続してプレート間すべりの時空間変化に注目していく必要がある。</p> <p><u>・貞観地震については津波堆積物調査等から断層モデルが推定されたが、今後新しい知見が得られれば、断層モデルが改良されることが期待される。また、貞観地震の地震動についてと、貞観地震が固有地震として繰り返し発生しているかについては、これらを判断するのに適切なデータが十分でないため、さらなる調査研究が必要である。</u></p>
<p><説明文></p> <p>2-2-5 次の地震について 宮城県沖から福島県沖にかけて 石巻市、仙台市、山元町、相馬市における堆積物の地域間対比によると、西暦1500年頃、貞観地震（西暦869年）、西暦430年頃、紀元前390年頃に全地域で共通してみられる巨大津波による堆積物が見つかった(文部科学省 研究開発局他, 2010)。</p> <p>貞観地震が固有地震として繰り返し発生しているかは不明である。</p>	<p><説明文></p> <p>2-2-5 次の地震について 宮城県沖から福島県沖にかけて 石巻市、仙台市、山元町、相馬市における堆積物の地域間対比によると、西暦1500年頃、貞観地震（西暦869年）、西暦430年頃、紀元前390年頃に全地域で共通してみられる巨大津波による堆積物が見つかった(文部科学省 研究開発局他, 2010)。</p> <p><u>また、貞観地震の地震動についてと、貞観地震が固有地震として繰り返し発生しているかについては、これらを判断するのに適切なデータが十分でないため不明とした。</u></p>